

貧困と戦争を打ち砕く 全国運動 新たな発展を

2・14国鉄集会の大結集へ



11・1の地平と今後の課題

田中康宏(動労千葉委員長)

国鉄闘争で前進切り開く

動労千葉鉄建団訴訟に対する6・30上告棄却は、日本の労働運動全体に終止符を打つ敵の意思の表れだったと改めて思います。

国鉄分割・民営化の根幹が国家的不当労働行為であったことを認めても、とにかく闘いの継続を許さない。戦争情勢と一体

で、日本の労働運動を最後の闘体する攻撃です。

この5か月、われわれは「闘いはこれから」というシンプルなスローガンで立ち向かった。階級的労働運動をめぐる攻防の最大の衝突点だった闘いの継続発展を物質的な力として示すことができるか。11・1集会で問

われた課題でした。

この数か月、徹底的に議論し、「闘いは何一つ終わっていない」「国鉄分割・民営化から始まった新自由主義が全社会を呑み込み、崩壊しようとしている情勢」「これまでの労働運動の歴史を乗り越え前進しよう」と訴えました。その思いが全体化し一致してかちとられた11・1集会だったと思います。

動労千葉もこの過程を新たな飛躍をかけて闘いぬきました。「最高裁決定が出ようが闘いはこれからだ」と3か月かけて討議し、全体が一つに団結することができた。その過程で戦争法案に対する8・30や9・13の国会闘争に組合員を全力で動員したことも大きかった。

われわれが何に立ち向かおうとしているのか鮮明になったし、職場から必死になって時代にくらいついて闘うことで団結

していく立場が鮮明になった。

定期大会では新たな三役・執行体制を確立し、直ちに強制出向3年目をめぐる10・11・2ストに立ち上がり、11・1集会の前日から当日にかけて千葉運転区廃止反対の指名ストを構えて臨みました。

民主労総ゼネスト

この間、日韓鉄道労働者の国際連帯で教えられ、改めて確信を持つことができたのは、外注化阻止闘争の意味です。

韓国でのゼネストの焦点は「賃金ピーク制」問題でした。40%賃下げして雇用を60歳まで延ばす。政府は年間1080万ウォン(日本円で約100万円)の支援金を出す。

それと引き替えに全部外注化していく。韓国の場合、鉄道公社が「鉄道技術協会」という子会社をつくって構内運転業務が

外注化されている。

韓国の労働者たちは、これを許したら、今はよくてもこれから先、労働者の権利や雇用が全部解体され、非正規化が全面的に拡大すると、ゼネストに立ち上がっているわけです。日本でもまったく同じことが社会全体で進行した。

動労総連合の建設

JRでは、国鉄分割・民営化の時、55歳で賃金を30%下げると踏み出したのも大きかった。また小さな存在かもしれないが、闘う国鉄-JR労働運動を再建する壮大な挑戦への一歩を踏み出した。本格的に組織を拡大して、JR・鉄道産業における階級的産業別組合をつくりあげたい。

そのためにも、JR本体はもとよりCTS(JR千葉鉄道サービス)での組織拡大を絶対的に実現していく決意です。

残すことになるといふ思いから

(裏面に続く)

11・14韓国民衆総決起大会

百人以上の訪韓団が参加

動労千葉を始め約1000人が11月13日〜17日に訪韓し、民主労総ソウル地域本部と共に民衆総決起大会に参加し闘いぬいた。

民主労総は「労働市場構造改善阻止」「バククネ打倒」を掲げ、この10数年で最大の結集をかちとった。個々の産別や労組では厳しい状況を強制的に場面もある中、「これを認めたら労働者の権利がすべて破壊される」と闘いに立ったのだ。

訪韓団は、この歴史的な闘いに参加した感動と多くの教訓を得たことを活かし、日本での闘いを一歩も二歩も前進させようと呼び合った。

2・14国鉄集会へ大結集を

2016年2月14日、「国鉄分割・民営化で不当解雇から29年―2・14労働者集会」を開催します。

6・30最高裁判決に踏まえ動労千葉は2015年9月9日、JR東日本本社に対し「組合員を直ちに採用しろ」と申し入れ、新たな解雇撤回・原職復帰闘争を開始しました。労働運動をめぐる内外情勢を考えたとき1047名解雇撤回闘争の継続・発展は重大な課題です。

国鉄1047名解雇撤回闘争とJRの外注化阻止闘争―国鉄闘争を軸に階級的労働運動の再生を目指すことが課題です。2・14集会を国鉄闘争全国運動の新たな運動展開の出発の場として考えています。

※

全国各地で国鉄集会が開催されます。大結集を訴えます。

■国鉄分割・民営化で不当解雇から29年2・14労働者集会

日時 2月14日(日)午後6時(開場5時30分)
場所 すみだ産業会館8階サンライズホール
墨田区江東橋3-9-10

(JR錦糸町駅前の丸井錦糸町店8階)

強制出向無効確認訴訟

「原則出向延長」実態暴く

12月9日、第13回動労総連合。今回の裁判は、出向が延長出向命令無効確認訴訟が行われ、後初めての裁判闘争だ。



動労総連合の弁護団は、出向延長の不当性を中心にJRを追及した。原告59人のうち3年間で出向が解除されたのはわずか3人。JRは、「出向は原則3年」と言い続けてきたが、実態は「出向は原則延長、例外

的にJR復帰」だ。初めから出向者をJRに戻すつもりなどなく、形式上は「出向」でも実質的には転籍が強制されている。JRの主張は「原則3年」といったにすぎない。JRに戻る職場がないわけではない」といつもの。しかし今回の動労総連合からの追及に、「出向延長について反論を準備する」と回答せざるを得なくなった。JR自身、出向を延長したことが弱点だと思っているのだ。

総括集会で動労連帯高崎の漆原副委員長が「高崎では7人しかプロパーが育っていない。TTSも『3年で検査係を養成するのは無理』『3年というのはJRの問題でTTSは関係ない』といっている」と報告、プロパー養成計画が完全に破たんしていることを指摘した。

動労水戸の石井委員長は、外注化による技術力低下・安全崩壊の実態を暴露。会社が「マニュアルだけでなく仕組みがわかっていないといけない」「これまでの教え方が間違っていた。見直す必要がある」と話したことを報告。その危機の深さを明らかにした。

動労総連合第30回定期大会

三桁の組織拡大を

12月5〜6日、動労総連合の第30回定期全国大会が開かれた。



動労千葉の田中康宏委員長は、国労やグループ会社の仲間を中心にして神奈川・新潟・福島で新たに単組が結成されたことをあげ、「動労総連合30年の中で、この大会は歴史的大会だ」と切り出しました。そして、「現在の動労総連合は過渡的な姿。JRに新しい産別労組を打ち立てよう」と決意を満ちて提起しました。

また労働者派遣法改悪については「国鉄分割・民営化以来の大転換。派遣法と国鉄改革法で社会がひっくり返ったのと同じことが起きようとしている」と攻撃の巨大さを明らかにし、「3年で派遣労働者が全部クビになる。非正規と貧困の問題が爆発的に噴出する。この3年が労働運動をつくり直す勝負だ」と力強く訴えました。

そして、「国鉄・JRで闘う労働組合をつくったら歴史は動く」と動労総連合建設の意義を語りました。

動労総連合・新潟は、外注会社の新潟鉄道サービスでの解雇攻撃に対して組合員通告をして団交を要求し、会社に解雇の「保留」を強制したことを報告。動労連帯高崎は、ストを闘ったことで職場の漠然とした不満が具体的な問題として組合に寄せられるようになったと闘いの意義を語りました。動労神奈川は非

正規雇用と低賃金を強いる資本への怒り、動労福島からは郡山総合車両センターの外注化阻止へ闘いの決意が語られました。動労水戸は常磐線全線開通と青年組合員へのライフサイクル強制配転を絶対に阻止する決意を語り、運転保安装置を削減する合理化・安全破壊への闘いを訴えました。動労西日本は広島印刷事業所廃止攻撃を阻止する決意を述べました。

戦争法をめぐる闘い

(表面からの続き)

戦争法が強行され、それに対して数十年ぶりの規模で労働者の怒りの声が噴出するまったく新しい階級情勢が動き出しています。

この時代にわれわれがいかにかに登場するのかがもつ一つの課題でした。激しい分岐と党派闘争、情勢への屈服と階級闘争の変質。これに立ち向かう実践的立場を鮮明にできるか否か。

11・1集会では、「私たちはストライキで闘う」「戦争を生み出すのは1%の資本家どもだ。排外主義や国家主義と対決し、労働者の国際連帯で戦争を阻止する」という立場を鮮明に

させ、具体的実践に踏み出しました。

戦争は社会全体を呑み込んでいかなければなりません。安倍政権はすでにマスコミや教育に對して激しい攻撃をしかけています。われわれはその現場にいて、ことをもって自覚しなくてはならない。

しかも、その現場で新自由主義が崩壊し、すべての産別・職場が矛盾の中にある。階級的労働運動が生まれるのはこの増城の中からです。だから戦争を止めるのは労働者の闘いです。階級的労働運動復権に向けた歴史的挑战を改めて自覚的に始めなくてはいいけない。

さらに、日韓連帯で痛切に感じたのは、今度の戦争法案が朝鮮有事を想定したものであることです。

そう考えた時、われわれが実現している民主労組との連帯闘争は歴史的な意味をもっています。同時に、われわれが肩を並べて進めるような力を本気に

なす。同時に、われわれが肩を並べて進めるような力を本気になす。同時に、われわれが肩を並べて進めるような力を本気になす。同時に、われわれが肩を並べて進めるような力を本気になす。

労働法制の改悪

もつ一点、国会では戦争法と一体で派遣法の抜本的改悪が強行されました。「1985年以来の大転換」と言われています。戦争と貧困、戦争と非正規職化が一体で進んでいる。

非正規・貧困問題、社会の全面的な崩壊問題が、年末から来年にかけて爆発的に噴き出す過程に入っています。

規が40%に達したと発表した。これまでとは情勢が一変します。これに立ち向かう職場や産別の構想と実践に踏み出して怒りの声を結びつけ、労働運動の再生に向かつて一つに団結させていく存在に飛躍しなくてはいいけない。

11・1労働者集会はそれで完了したのではなく、われわれが何に立ち向かわなくてはいいけないのか。どう飛躍しなければいい歩でした。すべてはこれからです。来春に向けて、直ちに新

国際連帯の前進

戦火の渦中にあるトルコの労働者やドイツ機関士労組との連帯と団結を実現したことも、これから本場に大きな意味をもつと思えます。

フランスで「イスラム国」による事件が起きて、オランダは「フランスは戦争状態だ」と宣言しました。

数十年にわたる帝国主義とスターリン主義の中東政策、果てなく繰り返された戦争が「イスラム国」を生み出した。戦後の帝国主義による中東政策が全部破綻し、さらなる戦争を生み出すとされている。中東、北アフリカからヨ

職場で闘い1万人の結集を!

職場からの闘いなくして組織拡大なし、地域での闘いなくして組織拡大なしです。怒りの声をどうすれば結集できるか、全てをその観点から考えて闘うことが必要です。

新自由主義の崩壊は、教育、地方自治体、医療などすべての職場で矛盾を爆発的に生み出しています。

安倍政権が進めているのは総

のように感じた」と言ってくれました。韓国の鉄道労組、ドイツの機関士労組、そしてメッセジをくれた中国の鉄道労組などのつながりが生みだされたことを本場に発展させたいと思えます。

非正規職化攻撃です。労働運動は階級闘争であり、労働者を組織する運動です。職場や社会のありようが全部壊されていく現実に対し、抽象論ではなく具体的にどういう運動を作っていくことができるのか日々問われています。

われわれは、人生をかけた選択として団結して共に闘おうと訴えるわけです。そういう生き

方を労働運動の具体的な姿として示したい。

全国各地に、11月集会に数十人という組合員を結集させることができる階級的労働組合の拠点を一つ一つあけるためにどうしたらいいのかを真剣に考えることが大事だと思います。この1年をかけてそういうものをつくりたい。

「日常的に職場での苦しい闘いを続けること、それから逃げないことこそがゼネストを準備する」と民主労組の仲間が言っていました。

時代は動き始めています。必死の決意でやれば不可能なことではないと思います。「月刊労働運動」1月号の内容を編集したものです。